

1. 目的

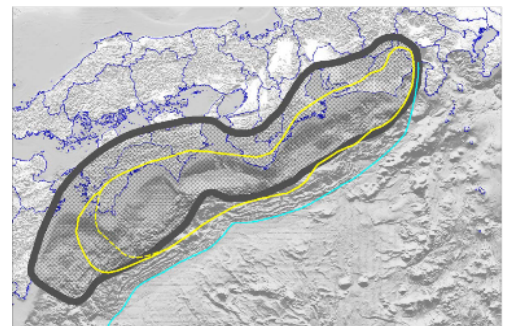
県の地震防災対策に必要な基礎資料として、震度や液状化の予測、被害予測等があり、この調査は、国の地震調査委員会の長期評価や中央防災会議における地震の設定方針等を踏まえて行っているところである。(前回実施は、平成15・16年度。)

昨年東北地方太平洋沖地震を踏まえ、地震調査委員会においては海溝型地震の長期評価の高精度化に向けて新たな評価方法の検討が進められており、東南海・南海地震などの震源域であり、地震発生確率が高い南海トラフは、平成24年春頃に長期評価の改訂を行うこととされている。また、内閣府においても「南海トラフの巨大地震モデル検討会」が設置され、最大クラスの対象地震を想定した、震度分布や津波高が推計される予定。

本調査は、このような背景から、南海トラフによる地震はもとより琵琶湖西岸断層帯や花折断層帯等の内陸の断層帯による地震動を精度高く予測し、発生被害を想定して、地域防災計画の見直しなど地震防災対策を推進するための基礎資料とすることを目的とする。

想定地震	発生時刻	建物被害		人的被害			地震火災 炎上出火件数	避難者数
		全壊棟数	半壊棟数	死者数	負傷者数	重傷者数		
琵琶湖西岸断層地震 (ケース1)	早朝	45,994	54,078	1,274	10,166	650	39	82,889
	昼間			857	7,941	511	93	
	夕刻			898	7,635	493	93	
琵琶湖西岸断層地震 (ケース2)	早朝	43,463	53,711	1,173	9,907	639	37	80,630
	昼間			851	7,389	474	87	
	夕刻			848	7,352	478	87	
琵琶湖西岸断層地震 (ケース3)	早朝	37,976	51,689	885	9,947	622	30	72,947
	昼間			676	7,604	469	73	
	夕刻			653	7,402	467	73	
花折断層地震	早朝	6,665	23,392	126	4,475	345	9	23,262
	昼間			94	3,416	267	19	
	夕刻			89	3,289	257	19	
東南海・南海地震	早朝	1,427	5,848	50	702	50	ほぼ0	5,336
	昼間			41	500	41	ほぼ0	
	夕刻			43	531	44	ほぼ0	

*) 重傷者数は、負傷者数の内数 **) 避難者数は避難所生活者の最大数



平成15年度から16年度にかけて滋賀県実施の地震被害予測調査結果(平成17年4月14日公表)

南海トラフの新たな想定震源域(「南海トラフの巨大モデル検討会」中間とりまとめによる)

2. 活用

地域防災計画や県の施策の基礎資料 市町はもとより、広く県民や企業等に情報提供

3. 平成24年度事業項目

(1) 検討委員会の開催

専門的な観点からの指導、助言のため、大学教授等の専門家からなる検討委員会を開催。

(2) 調査業務委託

調査は前回調査の手法を基礎として、平成24年度と平成25年度の2か年で実施の予定。平成24年度は、既存の調査結果に加えて新たな観測を実施し、地盤構造モデルを構築。

(参考) 調査全体の想定フロー

